

住み手主体のコーポラティブ住宅・実践の今

KS
DP 関西大学
戦略的研究基盤
団地再編
リーフレット
Re-DANCHI leaflet

MARCH 2012
VOL.015

文部科学省 私立大学 戦略的研究基盤形成支援事業
『集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究』



自分（たち）で創るのは面白い！

そしてサプライズ！ハプニング！が起こる！



自分（たち）で暮らすのは楽しい！



1 コーポラティブ住宅は

【自分たちで創る家】だから、

- ①自分で好い所を探し良い家を作ることができる素晴らしい仕組みだ。そこから生まれる、人たちの暮らしを豊かに受け容れるハードの確保につながり、
- ②そこに暮らし、愛着ある住まい・建物の維持管理をし、地域居住生活を楽しむことにつながっていく。

そんな事例を、私の設計コーディネイトした事例だけで見てみよう。



これは、大阪市の豊里（公団）団地の一角に1987年完成した。

公共が支援した時代！

- ・大阪府企業局
- ・府・市住宅供給公社、住宅都市整備公団
- ・公団賃貸団地の人たちが一角にあった公団の余剰土地に13世帯で。



当時は、大阪府の企業局も、泉北を中心に、コーポラティブ住宅に土地を供給した時代である。



上は、箕面川に面した高木林立の駅近物件だ。交通と自然環境。いずれも、家を求めるみんなが大事にする居住条件だ。住まう環境条件が先で家の形態は後だから、多様多彩なコーポラティブ住宅空間の要望が実現する。



ここには、防音装置完備のリビング＝ピアノ教室の単身音楽家の住まいがある。

都心になれば、もっとユニークな空間が発生する。大阪府中央区、都住創のコーポラティブハウスが右に見える写真中央の「ベクトルパーク」の2階の住宅が面白い。

ベクトルパーク

- ・都心角地
対角に中大江公園
- ・向かいに
都住創



ここには公園を背景にして、狂言師の道場・舞台が居間と相互合い乗り入れして出来上がる。



京都の都心では、地下にバレーホールが住まい手の要望で出来上がる。



吹田では、なんと太鼓ホールが一階にあるコーポラティブ住宅もある。

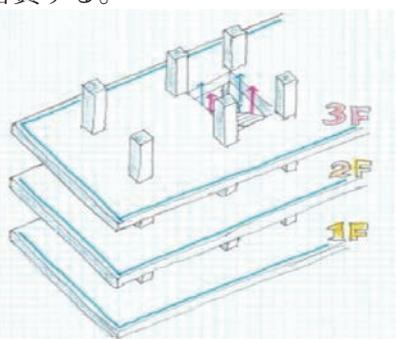


もちろん上階に住む人たちが望んでできたものである。彼らはプロはだしの太鼓サークル員で、NPO法人を作って所有している。500mm厚のスラブがなんとかか上の静かな暮らしを保障する。

2000年に完成した奈良平城ニュータウンの「つなね」は郊外に「ゆとりある暮らしをしたい」人たちが集まって完成した。将来、建物が木々に埋もれるイメージだ。



建築後10年たって、木々の成長が著しく、計画当初のイメージに近づいてきた。構造は秀逸。これほどスケルトンとインフィルを分離するというテーマを明快に果たしている事例は他にないと自画自賛する。



上図は、コンクリートの骨格構成図。外壁は木造、屋根は鉄骨造としている。



築後2年、増築できるという実績をのこした。RCステージからへこんでバルコニーだったところを、子供室に増築したのだ。



豊かな環境と、自由な暮らしは、多彩なコミュニケーションを誘引してきた。



料理上手のKさん宅では、招待食事がしばしば設される。広々とした共用庭には、豪快なこのぼり。



完成後1年たって、居住生活の経験を踏まえてみんなで考えて造った集会室では、様々なことが起こる。

陶器市、もちつき、映画会、寺子屋、お茶の会・・・・・・・・・・。



建設時の小さな木々が生長する。個々好きずきに植えたパーソナルツリー、みんなで選んだシンボルツリーの手入れ、身の回りの自主メンテナンス作業も楽しそうだ。





家族のコミュニティが作りだしたコーポラティブ住宅もある。

石川県から大阪地域に出て、家族を持った兄弟姉妹が子供を足し、13人で居住する。



写真右の浴室には男女混浴5人のいとこたちがはしゃいでいる。10人を超える人数が、最上階でおりなす土曜日夜の食事、入浴の光景がなんとも素晴らしく、今の家族生活には見られなくなった活気がある。

21世紀にはいってコーポラティブ住宅のハードが変化してきた。木造化（低層化）であり、小規模化である。

今、社会経済がそれを求めている。

区分所有戸建風住宅 ・千里山東CH



木造のコーポラティブ住宅は地方都市でも有効なようだ。上は岡山市に2年続いて完成した2物件である。

最後に、コーポラティブ住宅のハウジングの優位性を画像でまとめる。



経済力や生活観にも自在に対応する！



関連リーフレット：016

『住み手主体コーポラティブ住宅・実践の今』

レクチャー：伴 年晶 (IE SIEN・代表理事)

執筆：伴 年晶 (")

(講演：2011年11月8日)

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅“団地”の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究(平成23年度~平成27年度)」によって作成された。

発行：2012年3月

関西大学

先端科学技術推進機構 地域再生センター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

先端科学技術推進機 4F 団地再編プロジェクト室

Tel : 06-6368-1111 (内線:6720)

URL : <http://ksdp.jimdo.com/>